

## カテゴライズ

下京区 T.

「あの病院、質問してもきちんと答えないし、馬鹿にしてるわ。」と、妻が言いました。適当に相槌を打っていると、「今度はあなたも一緒に来なさい!」と、私に雷が落ちました。

しぶしぶ来たとはいえ、妻にいいところを見せたい気持ちや、この状況の元凶に対する怒り、日頃のうっぴん等々あらゆるものを身にまとい、臨戦態勢を整えていました。

さあ来い! 先生「〇〇さんですね。」私「ひゃい。」妻「……………」とまあ、こんな感じで私たちの戦いの火ぶたは切って落とされたのです。

そして約十分後 私「ありがとうございました。」先生「お大事に。」妻「……………」何事も無く終了。丁寧な説明でした。「先生は人を見て態度を変えている。」と妻は仏頂面。しかし、私の頭にはふと、「文系脳、理系脳」という言葉が浮かびました。妻は間違いなく文系脳、対する先生は恐らく理系脳。ここに何か原因があるのではないか?

家に帰ってインターネットで検索すると、たくさんの記事が見つかりました。要約すると、「文系と理系では議論の組み立て方が違う。命題の証明方法が違うのだ。文系の学問は蓋然性で考え、多少の例外は許容範囲なのに対して、理系の学問は普遍性で考えるため、少しの例外も許さない。質問の仕方にもそれは現れる。」ということである。したり顔で妻に話すと、「だから?」とへそを曲げられた。何故??

不機嫌な妻を尻目に、さらに調べていくと、「女性の脳は脳幹が2割多く、脳全体を使って総合的に判断するが、男性は左右の連結が良くない代わりに脳の中の役割が明確に区別されており、論理的な思考をする。」。大まかには男脳＝理系脳、女脳＝文系脳ということね。

さらには、「B型には理系脳が多く、A型には文系脳が多い」?

なんかおかしくないか? やっぱり。冷静に考えれば、脳幹の面積がどうであろうが、そこまで明確に男女に差なんて無いし、示された特徴も曖昧で矛盾している。血液型なんて言わずもがな。結局、占いのようなものなのだ。

文系理系など関係なく、個人と個人の違いだったのだ。それに気付かず、妻を勝手に分類して分かった様な気になっても何の解決にもならない。へそを曲げられるわけである。

このような分類、「カテゴライズ」は、社会のいたるところで見られます。そのせいで頭の中に壁を作っていることも多いのではないのでしょうか。自分勝手な壁を作らず、個人を個人として尊重して人付き合いをしていきたいものです。

もちろん、ここに書いたようなカテゴライズが無意味であるとは言いません。ある程度このような傾向があるのは事実ですし、いらぬ衝突を避けるためにも、うまく活用していきたいですね。

募集：「市民の意見」への、皆さんの投稿をお待ちします。